

# リュカ・ドゥバルグ

## ―僕が帰る場所こそ、スカルラッティ

Lucas Debargue

7月にリサイタルや読響との共演のため来日したリュカ・ドゥバルグは、気鋭、鬼才、異才とも評されるフランス次世代のピアニスト。それが10月に新譜『スカルラッティ・ソナタ』(全52曲)のリリースを予定している。子供の頃だったというスカルラッティのソナタとの出会いや、曲から連想するイメージなどを語ってくれた。

取材・文 上田弘子  
Text: Hiroko Ueda  
写真: ヒタキトモコ  
Photo: Tomoko Hataki



ピアノを前にしてのインタビューのため、話してはピアノを弾くドゥバルグ。話の延長で流れるようにピアノを弾く姿からは、ピアノと心が直接つながっているように感じた。

### 5枚目となる最新盤は敬愛するスカルラッティのソナタ集

リュカ・ドゥバルグは、チャイコフスキー国際コンクールで注目を集めた翌年、2016年に全世界デビュー盤を出すや話題となり、その後コンスタントにリリースを重ねた。5枚目となる今回の新譜は、幼少期から愛奏するスカルラッティのソナタ集。インタビューの前に、届いた新譜に仰天。エッ！ 4枚組で全52曲？ 深呼吸をして、いざ拝聴。

くと、ペダルはあまり踏んでいない感じ。ディスクには13曲ずつ収められ、その選曲構成を見ると、何かしらの共通項がある。等々で、あつという間に52曲を聴いてしまった。

「そう聴いてくださったって嬉しいです。スカルラッティとの出会いは、ピアノを本格的に習い始めた10歳。定期購読していた『ピアニスト』という雑誌の付録にスカルラッティの短い「ソナタ」K433の楽譜が載っていて、たった16小節の中にある広い世界に一瞬にして魅せられました。折に触れてスカルラッティは弾いていたけれど、一昨年「アリオソン」という音楽専門の書店でスカルラッティのソナタ全11巻を手に入れる機会に恵ま

ました。重い全集を持って帰り、部屋にこもって弾き続け、その一週間はスカルラッティの宇宙にいました。

例えばJ・S・バッハと言えば、グレン・グールド以前はチェンバロのワルター・ランドフスカでしたが、それをグールドが『ゴルトベルク変奏曲』に代表されるような、ピアノでのJ・S・バッハの大仕事をしましたよね。スカルラッティにも物凄く可能性があると感じていたので、今回のスカルラッティ・プロジェクトに至ったわけです」

500を超えるソナタの中から、調性、テンポ、舞曲の様式など、スカルラッティの何かしらのルールと照らし合わせて52曲をチョイス。調性や曲調を合わせて

### 名器ベーゼンドルファーでの録音

すると突然、ドゥバルグはモーツァルト「ピアノ協奏曲第23番」の第2楽章を弾き始め、スカルラッティとの共通点を説いた。

子供の頃に戻る感覚、  
無垢な中に入っていく感じが  
モーツァルトとスカルラッティにはあります

「子供の頃、森で遊んだ思い出。追いかけてこをしたり、暖かい陽の光など、すーっと昔に戻る感覚、無垢な中に入っていく感じが、モーツァルトとスカルラッティにはあります。彼らが書いた旋律はとも自然です。なので、音楽に導かれるままに弾いていけば、ペダルはときに不要です。今回の録音に際して、いくつかピアノを試弾した結果、アンドラーシユ・シフの調律も手掛けるトーマス・ウブシュの勧めもあって、ベーゼンドルファー1280VCを選びました。ベルリンのイエス・キリスト教会の響きも素晴らしいので、ペダル以上のサウンドを創ってくれました」

### 熱き教育論

ドゥバルグは長男で弟が3人。子供の頃の性格は、内向的ながらも内に秘めた熱いものは実感していたと言う。熱いものの発露が音楽だった。

「とにかく自我の強い音楽オタクだった

ので、子供の頃など先生は僕の扱いには苦労したと思います(笑)。日本ではどうなのでしょう。フランスなど、クラシック音楽は年配の人の趣味で、若者はゲームやヒップホップという強い固定観念があります。クラシック音楽ほど世界が広がる楽しいものはないのに、最近のフランスや、ヨーロッパの教育には疑問を抱きます。音楽をきちんと聴かせるといって本質的な教育が、とくにフランスではおざなりになっていると思います。ところが日本の若いピアニスト、例えば藤田真央や田所マルセルを聴くと、指だけではない、知性によって作曲家のメッセージを弾き示すという、規則やシリアスな学びができています。これには敬意を覚えます。

それは日本の聴衆も同じで、静かな聴きかたの中には物凄く集中力と音楽に対する深い理解がある。これは他の国にはない現象で、そういう中で弾ける喜びを、僕は来日のたびに実感しています。次回？ すぐにも来たいです(笑)」

子供の頃、彼がスカルラッティのソナタと出会った雑誌『ピアニスト』は、今も手元に残しているとのこと



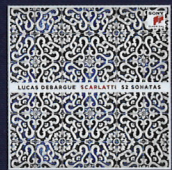
### リュカ・ドゥバルグ Lucas Debargue

1990年生まれ。11歳からピアノを学び始めたが一度ピアノの演奏から離れ、パリ第7大学で理学及び文学の学士号を取得。その後再びピアノの道を志し、エコール・ノルマル音楽院などで学び2015年に学士号を取得。14年アディリア・アリエヴァ国際ピアノ・コンクール優勝。15年チャイコフスキー国際ピアノ・コンクールでは4位入賞だったものの、モスクワ音楽批評家協会特別賞をただ一人受賞し称賛を集めた。以来、ソロ・コンサート、著名オーケストラやアンサンブルの共演者として招かれている。

### CD

『スカルラッティ・ソナタ』(全52曲・4枚組)

リュカ・ドゥバルグ (p)  
[S-SICC30529-32]  
5000円(税別)  
※10月23日発売予定



### プレゼント

リュカ・ドゥバルグさんのサイン色紙を  
2名様にプレゼント致します。  
応募方法は巻末News & Informationの  
「読者のページ」をご覧ください。